

最新医療の現場



腎臓病に関する現状と治療の進歩について

徳島大学病院 腎臓内科 科長 土井俊夫 といとしお

■問い合わせ 内科外来 Tel.088-633-7118

■慢性腎臓病 (CKD) への対策を完全に

腎臓病は自覚症状がなく、気づいた時には進行してしまっていた、といった例が数多く見られます。腎臓病は、早期治療により腎不全への進行を防止することができるのです。まずそのことを知ってもらうべく、県医師会が中心となって、「慢性腎臓病」への対策が進められています。一般の方々への啓蒙活動、一般医師の皆様から理解・協力を得ること、病院間の連携や検診の充実を図るのが目的です。

腎臓病は、尿検査、血液検査でチェックが可能です。少しでも尿検査異常があったり、血液検査で腎機能値異常があった場合には、必ず病院で診察を受けるようにしましょう。

■「糖尿病性腎症」の診断・治療の進歩

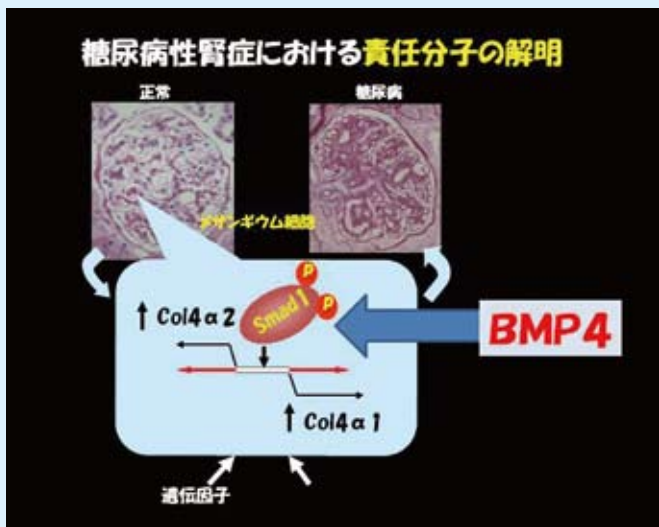
糖尿病が原因で末期腎不全になり、透析治療が必要となるケースは多くみられます。末期腎不全になると、全身の血管障害を患い、5年間における生存率が50%という厳しい現実があります。その治療に向けて、我々は遺伝因子を原因とする解明を積極的に進めています。今後、大きな進歩と新たな治療法が期待できる分野です。

■腎臓病と遺伝子

昨今、遺伝子異常が腎臓病の原因になっていることが、研究により明らかになってきました。遺伝子異常の解析の進歩により、様々な病気の解明や治療が進められ、この研究も当院で積極的に行っています。さらに、今後はiPS細胞による腎臓の再生という可能性も考えられていくことでしょう。

■治療法の進歩

透析療法が本格的導入され40年がたち、その治療法・合併症対策も画期的に進歩しています。また、ネフローゼ症候群の病態解明と血液浄化療法や新たな免疫抑制剤など治療戦略も進んでいます。



◀BMP4(骨形成蛋白4)という分子が糖尿病性腎症の原因分子であることを明らかにした図